

別記様式第2号

令和 7 年 2 月 10 日

行政視察報告書		(会派の場合) 会派の名称						
		代表者氏名						
		(会派以外の場合) 議員氏名	荒井直彦					
参加議員	土佐洋子	議員	伊東圭介	議員				
	中村和雄	議員	待寺真司	議員				
	荒井直彦	議員	金崎ひさ	議員				
		議員		議員				
日 程	令和 7 年 1 月 20 日 (月) ～令和 7 年 1 月 21 日 (火)							
視 察 先	(1) 静岡県下田市							
	(2) 静岡県駿東郡清水町							
	(3)							
視察目的 (項目)	(1) 新庁舎建設について (建設の概要及び議場の整備)							
	(2) 子育て支援策の取り組みについて							
	(3)							
【調査内容・概要】								
(1) 静岡県下田市								
下田市は、伊豆半島の南部東側に位置し、面積は104.38㎢あり、富士箱根伊豆国立公園の一角を有し、47kmにも及ぶ海岸線が続き (ちなみに葉山町は約4km)、そして下田港は開国日本の象徴でもあります。ペリー来航のつながりで横須賀市とも交流が盛んです。令和4年1月には下田市制50周年と御用邸建立50周年の記念式典において、現在も御用邸所在地である栃木県那須町と当町と友好都市締結を行いました。 以降、双方の議会議員がそれぞれの地を訪問し、議会側が中心となって交流を深めていきました。そして、大規模災害発生時における「災害時相互応援協定」を行政間でも締結することができました。今回の視察目的は、老朽化や津波の危険地域にある下田市役所移転工事の概要や費用、及び統合により使用しなくなった稲生沢中学校の校舎及び体育館をリノベーションした蓮台寺地区の新庁舎内にある議場の整備等についてです。								

視察の冒頭に高野副市長から歓迎のご挨拶を賜り、中村議長、江田副議長、渡邊議員、そして担当課職員から説明を受けて、庁舎内を見学させていただきました。中学校の校舎や備品類を有効に活用して、見事にリノベーション工事が進められており、校舎に続いて体育館も大規模改修し、また新しく庁舎建設も実施して、すべてが完成して供用開始となる令和8年4月に向けて取り組んでおります。

令和6年12月1日現在の人口は19,307人、10,360世帯が暮らしています。他の地方自治体同様に人口減少が進んでおり、12月1日時点での前年同月比で424人の人口減となっております。

なお今回の視察において後ほど詳しく報告しますが、民間ベースで話が進んでいる「下田白浜伊古奈桜」の葉山への10本の苗木植樹に関して、生産者である金指さんに案内していただき現地踏査もしてきました。



👉 下田市職員から新庁舎工事概要等を中村議長・江田副議長・渡邊議員と受ける
新庁舎の模型の奥が校舎、右手前が体育館のリノベーション、左が新築工事

★下田市新庁舎が2024年4月に完成しました。市役所が老朽化と津波対策で移転したのは新築の庁舎ではなく、統廃合で廃校となった中学校の校舎です。新庁舎は2022年に閉校にした旧稲生沢中校舎を活用しています。知人の母校でもあります。廃校解体の噂もあったそうですが、母校が市役所として活用されて嬉しいそうです。

議会棟を新しくする案もあったそうですが、議会の総意としてそのようにはしなかったとのこと。パソコン室が議会本会議場、図書室が建設課などと上手に趣を残して活用、市長室は元校長室です。

庁舎移転事業は長年にわたり紆余曲折を経てきたそうです。鉄筋コンクリート造り4階建てで、延べ床面積は約3千平方メートル。1階は主に会議室で、2階と3階に各課が入る。4階は議場。リノベーションして庁舎は白くとても明るいです。

市は同校を活用した庁舎と別に、隣接地に新築の棟と同校体育館を再利用する棟の2棟の整備を2026年度春の開庁を目途に進めています。庁舎建設は元々現在地の建て替えが検討されていましたが、東日本大震災を経て高台の敷根地区などに候補地が二転三転。松木正一郎市長の前任市長2人が移転を巡って議会と対立し、度々暗礁に乗り上げたそうです。

庁舎整備の総事業費は8億5千万円。新築棟は2階建てで延べ床面積が約2700平方メートル。1階部分に60台分の来客用駐車場を設け、2階に住民窓口を集約する。工期は約18カ月を見込んでいます。新築棟と並行し中学校の旧施設を活用した「体育館棟」は整備中で、体育館の半分を2階建ての延べ床面積約1700平方メートルとなる見込みとのことで、完成したときにはぜひまた見学させていただきたいです。

記 土佐洋子



👉 パソコン教室を改修した議場。青を基調としており見事にリノベーション

★下田市では本庁舎が旧耐震施設でかつ津波浸水想定区域に立地していること、および老朽化・狭隘等が深刻なことから平成21年から新庁舎整備の検討が行われてきた。

令和2年の新庁舎建設工事の入札不調を経て、中学校の統合で廃校になった旧稻生沢中学校の耐力度調査を踏まえて令和5年度から同中学校の全面改修工事に着手し、令和6年4月30日から新庁舎として一部開庁し業務を行っている。隣接地で、令和8年5月開庁を目指して庁舎を新築工事中である。

中学校の全面改修で生まれ変わった市庁舎を視察した。躯体には手を入れず、教室の仕切り等は従来のまま、床も磨いただけでそのまま使っているといったように従前の造りを活かした仕様になっている。執務室は全面窓ガラスのため明るく、こ

これはこれでひとつの執務室の形かなと感じた。本会議場も、天井が低いのが少し気になったが、慣れればこんなものかと。市民には議会をより身近に感じてもらえる効果が期待できるかもしれない。

本町では小中一貫校の整備の計画があるが、2校の小中一貫校を建設し、いずれそのうちの1校を町庁舎に転用できるよう、建設当初から織り込んで整備する手もあるかなと、本町の将来の人口減少に照らして思った。これから人口が減少し財政力の低下が見込まれる中、新庁舎の全面建て替えが難しくなるだけでなく、母校が町庁舎となることによって、親近感を感じた卒業生が町職員になってくれるかもしれないという人材確保効果も期待できそうである。財政力が低下する20～30年後の町庁舎の建て替えを考えたとき、一考の価値があるのではないかと思った。

記 中村和雄



👉 図書室の本棚を活用して書類整理



👉 調理実習室は市民の利用も可能

★下田市では「新庁舎建設について」を伺いました。4校だった市立中学校を1校に集約したことにより、廃校となった中学校校舎の1つを大規模修繕し、市役所として活用しています。旧市役所は、津波浸水地点にあり、そこからの移転計画を立案し、土地購入を済まし、新庁舎建設の入札にまで至っていました。

ところが、入札が不調となってしまいました。その移転計画の予算は国からの「防災集団移転促進事業費補助金」を活用しており、締切りが迫っていましたが、幸いなことにその補助金締切りが5年間延長となりました。そこで、計画の練り直しを行い、中学校校舎の活用が浮上したとのことでした。

新庁舎建設のために購入した土地の北側に隣接している稲生沢中学校の校舎と体育館を、そのままに活用するためのリノベーションをしています。購入した土地

は駐車場とし、校舎には市長室・副市長室・議会・防災安全課・建設課等々、それぞれの課が、かつての教室の雰囲気そのままに支障なく仕事が成り立っていました。

体育館は教育委員会とするために、内装工事中です。校庭には、入りきらない部局のために新規で庁舎を建設しています。全ての完成は令和8年3月の見込みです。下田市は友好都市でもあり、完成後にはもう一度訪ねてみたいと思っています。

なお、暖房は温泉水、冷房は地下水を活用しており、地球に優しい取組みが成されています。また、人口減などの社会状況に合わせて、市役所を縮小する時期が来た場合は、校舎の建物も老朽化するので、その時に取り壊すことも可能となり、3つに分散した市役所のメリットもあるとのことでした。将来を見越した取組みと何よりも状況に合わせた計画変更を可能とした柔軟な行政運営に感銘を受けました。葉山町のごみ処理の計画も難航しているので、柔軟な対応が必要ではないかと考えさせられました。

記 金崎ひさ



👉 議場のモニターも大きく見やすい

👉 下田市中村議長と伊東議長の🇯🇵

★友好都市である下田市に伺った。私自身は今回で5回目の訪問である。完成していた建物は 廃校にした中学校を再利用した旧校舎の4階の建物であった。他の2つの施設との全体開庁は令和8年5月の予定。(新築棟と体育館棟)

下田市職員からの説明においては、視察が急に多くなって来ている。全国的にも珍しい事例であるとのこと。個人的には、胸を張って自慢の出来る業務だと思いました。

* 新築棟には当初、議場等が設置計画にあったが、資材高騰等の要因から断念している。

記 荒井直彦



👉 下田市議会議場にて。中央が中村議長。1番左が江田副議長。1番右が渡邊議員

★下田市の本庁舎は、旧耐震施設で津波浸水想定区域に立地しており、老朽化や施設の分散、狭隘など物理的劣化等が深刻で平成21年より新庁舎整備に向けた検討が開始され、平成22年5月に新庁舎建設ワーキング会議において、本庁舎機能の集約による市民サービスの向上、行政運営の効率化と防災拠点の確保のための庁舎の建替えについて合意されたそうです。

新庁舎建設にあたっては、これまで複数の候補地において新庁舎建設基本構想・基本計画等の策定検討を行い、基本理念、導入機能等の施設の在り方、コスト試算等を多角的に検討して平成29年12月に河内地域への移転が決定しました。その後、新庁舎建設工事の入札不調、コロナ禍による社会的影響への対応を経て、令和3年に実施した旧稲生沢中学校校舎、屋内運動場の耐力度調査結果等を踏まえ、既存資源の活用によるコスト縮減、環境負荷低減の視点も加えて同校施設を新庁舎として改修して活用することとしました。

令和4年度からは、旧稲生沢中学校校舎の改修設計に着手し、令和5年度は、同校の校舎の全面改修工事、エレベーター棟増築工事に着手し、検討開始から15年を経て令和6年3月に旧校舎活用棟完成、令和6年5月にエレベーター棟の完成となりました。

なお、令和４年度より旧校舎回収棟の設計業務と並行して進めている新築棟の設計業務は令和６年３月に完了し、令和６年度及び令和７年度の２ヵ年をかけて整備工事を実施し、令和８年度中の完成、同年春ごろの全面供用開始を目指して業務を進めているそうです。

旧校舎活用棟の整備概要は、校舎を全面改修し、屋上防水、外壁のクラック補修、間仕切り壁の撤去及び新設、床や壁面など内装仕上げ、電気設備及び給排水衛生設備の全面改修に加え、防災拠点として必要な自家発電装置、大型受水槽を設置や多様な働き方に柔軟に対応できる什器類の整備等、平時は誰もが利用しやすい施設として、災害時には防災拠点として機能する庁舎となりました。また、新たにバリアフリー対策としてエレベーター棟を増築していました。

事業費は、令和３年度～令和６年度までの旧校舎改修棟（改修）とエレベーター棟（増築）をあわせて先行開庁時の事業費合計は、９億９３０７万７千円とのことでした。今ある資源を利活用しての庁舎計画は、大変興味深いものがありました。気になった点は、市役所庁舎としてのセキュリティ対策です。学校の校舎と市役所庁舎とでは、扱うデータの重要度が違うので建物の構造や配置が気になりました。

記 伊東圭介

（２）静岡県駿東郡清水町

清水町は、伊豆半島の付け根に位置し、静岡県内で最もコンパクトな自治体で、行政面積は当町の約半分くらいの８．８１㎢しかありません。全国１７４１市区町村の中で１７０１番目の広さです（葉山町は１６０４番目）。人口は当町とほぼ同じくらいで、令和７年１月１日現在３１，６３７人（当町は同時期で３１，８１３人）が暮らしており、人口密度は全国的にみても高いのですが、当町は市街化区域５．１３㎢に約２８，０００人が住んでいますので、市街化区域での人口密度は優っております。

まちの中央部を清流柿田川が流れ、平均の湧水量は１３０万㎥／日と豊富で、川床から湧き出す水に砂が舞い、清く透き通った流れには天然記念物のミシマバイカモが揺れているのが見えます。富士山などに降った雨や雪が２６年から２８年もの歳月をかけて地下水が湧き水となって柿田川に現れます。透明度も高くとても素敵な光景がひろがります。現在柿田川の湧水は３市２町の給水区域で飲料水として利用されております。恵まれた自然環境と子育て支援策の充実により、２０代から３０代の子育て世代の転入が多く、若い住民が多い町となっております。ちなみに高齢化率は２６．８％で静岡県内５番目に低いとのことでした。

今回は、若い世代が転入してくる大きな要因である、子育て支援策についてご教示いただきました。現地踏査も行い、調査項目以外の子育て支援策についても資料

の作成・説明をしていただき、重層的な取り組みに感銘を受けました。また昨年1月に議会広報の視察で来町されました、松下尚美議員には視察開始から現地踏査まで帯同いただき、様々な情報交換もすることができました。佐野議長、大濱副議長をはじめ、ご対応賜りました清水町の皆様に、心より感謝申し上げます。



清水町議場にて。右3番目が佐野議長、3番目が大濱副議長、2番目松下議員

☆清水町で「子育て支援策について」を伺いました。人口は葉山町とほぼ同数ですが、外国人が1363人、年少人口割が12%、高齢化率は26.8%です。このような状況下で、こども未来課を中心にして子育て支援に力を入れています。医療費は0歳～高校3年生担当分まで完全無償化です。そして、町内には教育・保育施設が12カ所あり、ここ数年、待機児童は発生していないとのことでした。「子育て総合支援センター」と「こども交流館」の現場を視察させていただきました。

場所は大型商業施設の中にあり、保護者が買い物等、出掛けやすく大型駐車場も完備した申し分ない立地条件でした。その為か、視察中もひっきりなしに子どもを連れてやってくる保護者の方々に会いました。この場所は大型商業施設運営事業者から町が無償貸与されており、利用料は一時保育を除き無料であり、他市町居住者も利用可能とのこと。スタッフも揃っており、何気に子育て等に関する相談などもしたりして、素晴らしい施設の中でゆったりと子育てできる手助けをしている風が見て取れました。葉山町の中でも、このように自由に交流できる場所が必要であり、民間の努力に任せるのみでなく、行政施策として、何か手を打つべき時がきているのではないかと刺激を受ける視察でした。

記 金崎ひさ

☆清水町の子育て支援施策について伺いました。子ども交流館や子ども子育て支援センターは町内外を問わず無料で利用できることが素晴らしいです。ショッピングセンターを利用する間に利用可能です。

町内に町立幼稚園が4園・公立保育所が2園・私立保育園が2園あり、私立幼稚園がない町です。法定待機児童は発生していませんが、潜在待機児童は75人います。すべての幼稚園の園庭が芝生ということもケガをするリスクも少なく、羨ましい限りです。

おむつのサブスクを実施していて、7～8割が利用している手ぶら登園。また、町立保育所ではキャッシュレス決済を導入していて利用者のサービス向上と保育士の事務負担軽減につながっています。

視察を受け入れてくださった清水町のみなさまありがとうございます。人口増の要は子育て支援だということを、改めて感じました。

記 土佐洋子



👉 サントムーン柿田(民間商業施設)の、こども交流館と子育て総合支援センター

☆人口は本町とほぼ同じ3万2千人弱、面積は本町のほぼ半分の8.81㎢で、鉄道駅がない町である。面積の狭さを除けば本町と似ているように見えるが、沼津市と三島市の間に位置し、町境が全く分からない連坦した街並みを形成していることもあって、行政区域にとらわれない隣接市民の町施設の利用が印象に残った。

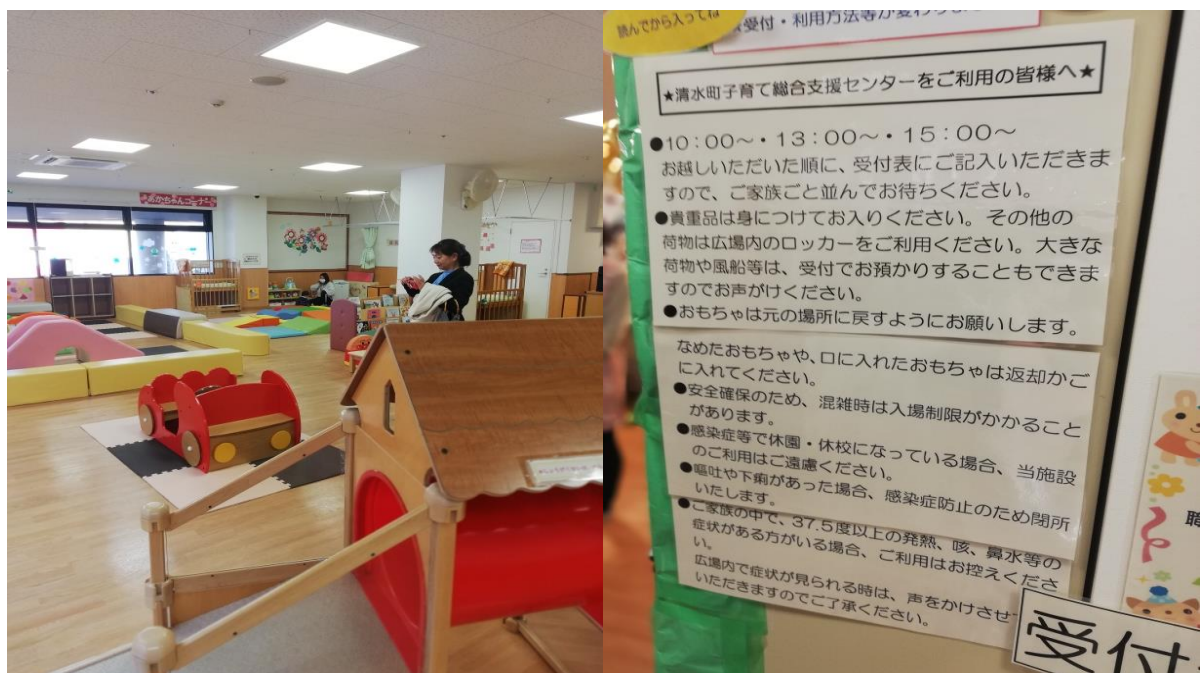
子育て総合支援センターにしても、こども交流館にしても清水町のような大規模商業施設のない葉山町には望むべくもないが、こんな施設が町内にあったらいいなと思わせる施設である。今後人口減少で町内の商業施設が閉鎖した場合にチャンスが訪れるかもしれない。小中一貫校の整備にあたって、児童生徒だけでなく子ども

と地域の中核的施設として位置づける中で、就学前の子どもたちも含めた「子どもの育ちの拠点」の視点を含めて検討したらどうかと思う。

子ども・子育てコンシェルジュ事業で「子育てに関する各種情報の発信」をインスタグラムとフェイスブックを使って行っており、フォロワー数がそれぞれ約800人および約700人ということである。情報の管理をどのように行っているか気になったので、帰宅後電話で担当係長に尋ねたところ、発信は幼稚園・保育所の職員と子ども未来課の職員が、その日の出来事などを写真で発信しているとのことであった。課として内容等の管理をしているわけではなく、職員が各自の判断で発信しているとのことである。デジタルの素養がない私はアクセスできていないが、QRコードを使って誰でもアクセスできるこのようなやり方は、本町でも活用してみたら面白いのではないだろうか。

清水町子育てわきみず ガイドブック「わ to わ」によれば、本町の半分の僅か8.81km²の町域の中に、27か所の公園がある。改めて訪問して、公園巡りをしてみたくなった。駐車場のある公園は8か所。町内会管理の公園が昔から存在することである。公園の多さ、町境が全く分からない隣接市と連坦した街並み、子育て総合支援センター内の交流広場の隣接市民の利用（町内在住者より町外在住者の利用の方が多い）、かつて合併の話もあったが今は無い、令和6年度歳入予算における町税構成比50.9%等々、清水町長はじめ職員の皆さんがどのような思いで町政運営しているのか興味深い自治体である。

記 中村和雄



子育て支援センター内の親子で遊べる交流ひろば。一時保育室もあります。

☆清水町では、子育て総合支援センター及びこども交流館の運営について・子ども子育てコンシェルジュサービス事業についてご教授いただきました。私は視察項目ではないことを伺いました。（２件）

① 当日の清水町から配布された資料の中では、令和６年１月１日現在では、総人口３１，８２３名の人数の内訳に外国人で１，３６３人と記載あり、私自身は初めての経験だったので伺うと、内訳は８００人がフィリピン人、５００人がブラジル人と、自動車工場の関係で多いと回答がありました。

② 友好国際都市の台湾・苗栗市の締結について
国際友好都市に関して 台湾・苗栗市（みやおり）との締結について伺ったところ、ロータリークラブ間の交流から始まり、平成１５年１２月１５日に締結をしている。

記 荒井直彦

（３） 下田市白浜伊古奈桜現地踏査報告

視察に先立った１月１６日に下田市議会中村議長より電話連絡が入り、白浜伊古奈桜の生産者と話す機会を設けたいとの要請がありました。そこで２１日の清水町への移動の前に、現地を訪問することとし、午前９時過ぎに生産者の金指資行氏に連れていただき、白浜伊古奈桜が植林されている場所にてお話を伺いました。例年よりも先始めが遅れており、残念ながら満開のお花見とはなりませんでした。開花している花を見ることができました。

白浜伊古奈桜は令和６年１月３０日に品種登録がなされたばかりで、御用邸友好都市のつながりで、白浜伊古奈桜の苗木を１０本程度、葉山町の公園等に植樹する方向で民間レベルの話し合いがもたれていました。「しゅめりょう公園にもいかがでしょうか」とお声がけをいただき、このプロジェクトを知ることとなり、今回現地で生産者のお話と実物を拝見できて、今後の取組みに大変参考となりました。

育成者権は３０年間設定されていて、許可なく増殖や栽培ができない桜なので、民間と行政や議会が手を取り合って、友好の印としても末永く白浜伊古奈桜が咲き誇るように本事業を推進しなくてはならないと一同心合わせができました。

◆白浜神社の近くに咲く白浜伊古奈桜を見学しました。河津桜を品種改良した方はわたしと同じ神輿会のお父さまの同僚とのこと。また白浜神社は森戸神社のお嫁さんとのことで、ご縁を感じます。

花が大きく色合いが華やかで全体がグラデーションとなっています。木が高くなり枝が横に伸びる特徴があるので4m×4mほどの広さが必要だそうです。例えば南郷上の山公園や主馬寮公園など葉山町内に植樹できると良いですね。

記 土佐洋子

◆中村議長から紹介で「伊古名桜」の生産者である金指さんとお会いすることが出来た。金指氏からは、御用邸の町・葉山に、この「伊古奈の桜」の苗木を葉山で育てて頂きたいとのお話があり、今後の交流の推進に繋がることを期待したい。

記 荒井直彦



👉 下田白浜伊古奈桜の特徴は開花が河津桜よりも早く色合いが華やかです。
下2枚目中央が生産者の金指さん。品種登録証や苗木の生産場所も見てきました。





清水町子育て支援センター職員手作りのお誕生日カード。この心配りが素敵ですね。町外の利用者が多いのも特徴です。素晴らしい施設と取り組みでした。

視察概要及び編集 待寺真司